

理学療法学科の主要科目の特徴

1年次

豊かな教養と人間性を持つ有能な理学療法士となるために、教養科目として人文・社会・自然科学分野にわたる幅広い教養や技能を学びます。また理学療法の知識や技術を習得するための基盤となる専門基礎科目として、身体の基本構造（解剖学）や生理機能（生理学）について学びます。

解剖学・生理学

身体を動かすための構造や生理機能について学びます。

身体を構成する器官の形態や内部構造は、その器官の機能と密接に関係しています。さらにそれらの器官は、それぞれが独立して働いているのではなく、互いに影響を及ぼしながら機能を果たしています。これらの知識を習得し、人体器官の構造、組織の形態及びその生理的機能・役割等について学習します。

理学療法基礎論 A・B

少人数ゼミで、理学療法士を目指す上で学習に必要な大学での学び方、および図書館の使い方や自主的に情報を収集する方法、効率的な復習方法や能動的学習について学びます。また習得した能動的学習を展開し、特に臨床で理学療法実施に必要不可欠となる解剖・生理学の基礎的知識を自主的に学び理解を深めます。

2年次

疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進を理解するために、病理学、運動器障害学、内部障害学、感覚器障害学、精神医学、小児発達学、臨床神経学などの臨床医学や理学療法基礎科目である評価学や基礎治療学について学びます。

理学療法評価学演習

理学療法の評価について実践的に学びます。

理学療法の現場では、治療対象者が持つ障害を検査し、一人ひとりの問題点を抽出し、適切な治療方法を探っていきます。そのためには、評価の一連の流れを理解すると共に、検査の一つひとつを正確な技術で実施することが必要です。この授業では、各評価項目の内容と目的、方法を学び、その基本的な技術を身につけます。

理学療法基礎論 C・D

少人数ゼミで、1年次に学んだ基礎知識の整理と確認をするとともに障害に対する検査測定知識を整理し学びます。

3年次

医療人としての専門性を高める専門科目では、特に運動器障害・内部障害・神経機能障害・

スポーツ障害理学療法学・実習、小児発達障害理学療法学・実習などの専門的な理学療法学および治療技術、障害者や高齢者が住み慣れた地域で生活ができるよう、高齢者理学療法学演習や地域理学療法学演習などを体系的に学びます。

高齢者理学療法学演習

高齢期には多くの合併症とそれに伴う機能低下が生じやすくなります。本演習ではこれらに対する理学療法的評価と治療の実践を演習します。具体的には、講義で学んだ老化によってもたらす生体の生理学的、形態学的な変化を理解するとともに、具体的な評価手段と治療手法を学び、高齢期障害の予防と健康維持、さらに機能回復における実践的な指導法を学習します。

理学療法学演習 A・B

少人数ゼミで、1・2年で学んだ、専門基礎科目の知識の整理と確認をするとともに、理学療法の障害に対する検査・測定、問題点の抽出、理学療法プログラムの策定といった一連のプロセスを学びます。

4年次

臨床実習Ⅲ・Ⅳ（総合実習）による実践学習と、理学療法総合演習による理学療法士免許取得に向けた専門的知識・能力の確認と整理を実施します。

理学療法総合演習

理学療法士国家資格の習得に向け、これまでに学習した専門基礎および専門科目の理解を深めることを目的に解剖学、生理学、運動学などの基礎医学、運動器障害学、内部障害学、臨床神経学、精神医学などの臨床医学についてより深くかつ統合した形で学びます。最終的に、学習してきたことを理学療法プロセスに応用・発展できるような体系化した知識とするために、少人数クラスでディスカッションをしながら学習します。

卒業研究

専門的知識や技術を探究する医療専門職業人となるために、そして研究を通して新たな事実の予測力を身につけるために、担当教員の指導のもと、テーマに応じて研究計画の立案、実施、結果の分析を行い、論文を作成します。これまでの実習などで経験した事実を科学的な知識に基づいて分析することは、将来理学療法士として理学療法に従事した際に臨床で経験する疑問や問題点を解決する、あるいは理学療法の効果を検証するなど卒業後の研究活動に発展させることができます。